

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年9月30日(火) 6校時
児 童 6年生 15名
指導者 山 根 大 輔

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう
教材名 平和のとりでを築く

2 単元について

(1) 教材について

第5学年及び第6学年の「C読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」ことである。また、「B書くこと」の目標は、「目的や意図に応じ、考えたことなどを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる」ことである。

本単元で育てたい主となる能力は、「C読むこと」の内容「イ. 目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること」、「エ. 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」、及び、「B書くこと」の内容「イ. 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること」、「ウ. 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組み立ての効果を考えること」、「エ. 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」である。そこで、本教材の学習を通して、「事実と意見を区別しながら筆者の考えをとらえ、それに対し自分の考えをもつこと」と、「自分の考えを明確に表現するために必要な材料を集め、効果的な文章の組み立てを考えること」を目標としている。

本教材は、「筆者が訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えをもつ」、「平和についてさらに考えるために調べたり話し合ったりし、深まった考えを分かりやすく組み立て、書いて交流する」ことを主目標としている。「平和のとりでを築く」は、大きく4つの意味段落で構成されている。第一段落では原爆ドームに対する筆者の思い、第二段落では原爆ドームがたどった歴史、第三段落では原爆ドームの世界遺産決定までの過程、第四段落では筆者が原爆ドームを通して読者に訴えたいことが述べられている。また、事実とそれに対する筆者の思いや考えを分かりやすく書かれており、題名や重要語句、文末表現や文章構成を手がかりにして丁寧に読み進めていけば、原爆ドームに対する筆者の強い思いを読み取ることができ、ひいては原子爆弾や戦争、平和などに対して、子どもたち一人一人が考えをもち、調べたり話し合ったりして深めていこうという意欲を高めることができる教材となっている。

(2) 児童について

児童は、5年「サクラソウとトラマルハナバチ」で筆者の主張を興味をもって読みながら、自分の意見をもち、グループや学級で話し合うという学習をした。「千年の釘にいどむ」でも、要旨をとらえ感想をまとめる学習をしている。また、6年「生き物はつながりの中に」では、筆者の考えをとらえ、それに対する自分の考えをまとめることを学んできている。これらの学習を通して、筆者の考えを文末表現や重要語句に着目してとらえ、それに対する自分の考えをまとめることができるようになってきている。しかし、感想の範囲にとどまり、筆者の主張や叙述の仕方についての吟味・評価にまでは至っていない。また、感想を文章にすることが苦手な子や、自信が持てず発表しようしない子もいるなど個人差が大きい。

書くことについては、重要語句や接続語などにサイドラインを引き、中心文を見つけ段落を要約することはできるようになってきている。しかし、大事な箇所にサイドラインを引くことは他教科においてもできるが、重要な言葉に短く引くということができない児童は少ない。また、さらに深めたい言葉への書き込みの内容についても個人差が大きい。

5年生時に実施したCRTの読む能力の平均は77.1点で、特に「要約した内容の理解」の力が劣っている。また、読解力事前テストは平均90.3点と、世界遺産の種類や例など事実に関わる問題に関しては、ほぼ全員が読み取ることができている。しかし、筆者の考えの根拠を求める問題、筆者の意図を問う問題では誤答が多く、文章表現から筆者の意図を読み取ったり、筆者の伝えたいことを明確にとらえたりすることが課題である。

(3) 指導にあたって

本教材の指導にあたっては、自分の考えをしっかりともち文章にまとめることを目指し、「感想」といったレベルで止まらないようにしたい。そこで「平和のとりでを築く」の4つの意味段落の段落構成のうち第二段落を3つに分け、丁寧に読み取らせていきたい。筆者の伝えたいことをとらえる学習を通して、自分の考えをしっかりとつことができるようにしていきたい。

「つかむ・見通す」段階では、戦争や原子爆弾、平和宣言など資料を提示し、平和に対する関心を高めたい。そして、初発の感想をもち、これまでの説明文の学習を振り返りながら、学習の見通しをはっきりともたせていきたい。

「深める」段階では、意味段落ごとに筆者の考えと事例を明確に区別させ、叙述内容を確かに読み取らせるとともに、筆者の思いを明確にとらえさせていきたい。そのために、重要語句や文末表現にサイドラインを引いたり、中心文を見つけ視写や書き込みをしたり、段落ごとに要約文をまとめたりする活動を取り入れていきたい。

「まとめる」「広げる」段階では、戦争や平和に対する自分の考えをまとめていく。どのようにしたら効果的に伝えることができるのか考えながら、資料を集めたり、文章構成を考えたり、分かりやすい表現を工夫したりする活動に取り組ませていきたい

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- 筆者の伝えたいことを受けて自分なりの考えをもち、「原子爆弾」や「平和」について関心をもって調べたり、話し合ったり、書いたりしようとする。

【読むこと】

- ◎ 書かれてある内容について、事実とそれについての筆者の考えに目を向けながら、その要点を読み取ることができる。
- ◎ 「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注意しながら読むことができる。
- 筆者の考えを受けて、自分はどのように考えるかをまとめながら読むことができる。

【書くこと】

- 自分の考えを明確に文章に表現するために、材料を選んだり、文章の組み立てを考えたりすることができる。
- 調べたり話し合ったりしたことをもとに、事実と自分の考えを区別して、分かりやすく文章に表現することができる。

【言語事項】

- 文章には色々な構成があることを理解し、自分の表現したい内容に合わせて適切なものを選び、活用することができる。

4 単元の指導計画（全11時間）

段階	時	学習活動	具体的評価規準	努力を要する児童への支援
つかむ・見通す	1	戦争や原爆に関する資料から、平和に対して関心を持ち、知っていることや考えていることなどを交流し合う。 教材文「平和のとりでを築く」を読んで、初発の感想を書く。 ◇感想	関：原爆に関する資料に興味を示し、「平和のとりでを築く」を読み、疑問や気付きをもとに、初発の感想をノートに書き積極的に発表することができる。	戦争や原爆について知っていることなどに関連させて、どう思うか考えさせえる。
	2	教材文「平和のとりでを築く」を6つの意味段落に分けながら、文章構成を確認する。 意味段落ごとに学習課題を設定し、読みの計画を立てる。	読・言：叙述内容から文章のまとまりをとらえ、知りたいことなどをもとに課題を立てるなど、学習計画を立てることができる。	多く使われている言葉に着目させ、文章のまとまりをとらえさせる。 初発の感想をもとに学習したいことをまとめさせる。
	3	新出漢字の練習をする。	言・関：新出漢字の書き方、読み方、使い方が分かり意欲的に練習に取り組むことができる。	意欲的に取り組むことができるように、声がけをする。
深める	4	一の意味段落を読み、「原爆ドーム」に対する筆者の思いを読み取る。 ◇サイドライン ◇視写・書き込み ◇要約文	読：原爆ドームに対する筆者の思いを、文末表現を手がかりにして読み取り、重要語句や中心文をもとにまとめることができる。	文末表現の違いにより筆者の思いが表れている文を見つけられること、要約文は重要語句や中心文をもとにまとめられることに気づかせる。
	5	二の意味段落を読み、「原爆ドーム」が物産陳列館として市民に親しまれていた様子を読み取る。 ◇サイドライン ◇視写・書き込み ◇要約文	読：物産陳列館が多くの市民に親しまれてきた様子を語句に着目して読み取り、重要語句や中心文をもとにまとめることができる。	原爆ドームの近くの川の様子に焦点を当て、平和な様子を捉えさせる。
	6	三の意味段落を読み、物産陳列館が原爆によってどのような姿になってしまったのか読み取る。 ◇サイドライン ◇視写・書き込み ◇要約文	読：原子爆弾によって建物はどうの姿になってしまったのかを文末表現などを手がかりにして読み取り、重要語句や中心文をもとにまとめることができる。	原爆の威力に着目させ、それによって変わってしまった原爆ドームの姿を詳しく読み取らせる。
	7	四の意味段落を読み、「原爆ドーム」の永久保存へ動いていった経緯を読み取る。 ◇サイドライン ◇視写・書き込み ◇要約文	読：原爆ドームの永久保存へと動いていったきっかけなどを文末表現などを手がかりにして読み取り、重要語句や中心文をもとにまとめることができる。	保存に反対の意見もあったことをとらえさせ、そこから何をきっかけに保存へと動いていったのか考えさせる。
	8	五の意味段落を読み、「原爆ドーム」が世界遺産に登録されるまでの経緯と筆者の思いを読み取る。 ◇サイドライン ◇視写・書き込み ◇要約文	読：原爆ドームが世界遺産に決定するまでの経緯と筆者の思いを文末表現を手がかりにして読み取り、重要語句や中心文をもとにまとめることができる。	文末表現や主語を手がかりに筆者の思いの表れている文を見つけさせる。
	9 (本時)	六の意味段落を読み、「原爆ドーム」について、筆者が私たちに訴えたいことは何かを読み取る。 ◇サイドライン ◇視写・書き込み ◇要約文	読：筆者が伝えたいことは何かを、題名や文末表現などを手がかりにして重要語句や中心文を見つけ、それをもとにまとめることができる。	重要語句や中心文は題名や文末表現などを手がかりにして見つけられること、要約文は重要語句や中心文をもとにまとめられることに気づかせる。
まとめる	10	全文を通して自分の読みを見直し、筆者の考えをとらえ、自分の考えをまとめる。 ・自分の思いをまとめる	読・言：全文を読み返ししながら筆者の伝えたいことを確認し、自分の考えを文章にまとめることができる。	筆者の伝えたいことを確認し、教材文を読んで思ったことを想起させ、自分の考えをまとめさせる。
広げる	11	筆者の伝えたいことや自分の考えをもとに、戦争や平和について話し合い、考えを深める。	関・言：戦争や平和について筆者の考えや自分の考えをもとに話したり聞いたりして自分の考えを深めることができる。	前時でまとめた自分の考えを振り返らせたり、友達の考えについてどう思うか考えさせたりしながら話し合いに参加させていく。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

【関心・意欲・態度】

- 「原爆ドーム」について、筆者が伝えたいことに関心を持ち、手がかりを探しながら意欲的に読み取ろうとする。

【読むこと】

- 「原爆ドーム」について、筆者が伝えたいことを、重要語句や文末表現などを手がかりにして読み取ることができる。

(2) 本時の書く活動

本時では、筆者の伝えたいことをより明確にとらえさせるために、文末表現や重要語句にサイドラインを引かせ、意味段落の中心文を視写させ、深めたい言葉に書き込みを行わせていきたい。

また、中心文と重要語句を手がかりにして要約文を書かせることによって、筆者の伝えたいことを確かに読み取らせることができると考える。

(3) 本時の展開

◇書く活動 ◎主となる「書く活動」に関わる部分 ☆支援 ○評価

段階	学習活動	教師の発問と指示	予想される反応	評価と支援
つかむ 5分	1. 前時の学習を想起する。 2. 本時の学習課題を確認する。 筆者が伝えたいことは何か読み取ろう。	・原爆ドームが世界遺産に決定したとき筆者はどんなことを感じたのですか。 ・今日の学習課題を確認しましょう。	・世界の人々の平和を求める気持ちの強さを改めて感じた。	☆前時のまとめを想起させる。
見通す 1分	3. 学習場面の見通しをもつ。	・筆者が伝えたいことを読み取るために、何に気をつけて読んでいけばよいでしょう。	・文末表現 ・重要語句 ・中心文	☆これまでの学習を想起させる。 ○学習の見通しをもつことができたか。(発言)
深める 34分	4. 学習場面の音読をする。 ・指名読み 5. 課題解決のための読み取りをする。 (1)筆者の伝えたいことが表れている文を探す。 ◇サイドライン (2)中心文を視写し、深めたい言葉に書き込みをする。 ◇視写・書き込み (3) 中心文について話し合う。	・どの文に筆者の伝えたいことが表れているか考えながら音読しましょう。 ◎重要語句と文末表現にサイドラインを引きましょう。 ・筆者が伝えたいことがより表れているのはどの文ですか。 ◎㉑段落の2つ目の文を視写し、深めたい言葉に書き込みをしましょう。 ・「原爆ドーム」はどんな様子ですか。	・㉑段落の2つ目の文 ・文末が「～なのだ。」だから ・題名と同じ言葉がでてくるから ・痛ましい姿 ・原爆がどんな惨害をもたらすか無言で告げている ・核兵器は不必要だと警告している	☆文末表現・重要語句に着目させる。 ○中心文を見つけることができたか。(発言) ☆書き込みの視点を確認する。 ・詳しくする ・言い換える ○深めたい言葉を選び自分なりに、詳しくしたり言い換えたりすることができたか。(ノート・発言)

<p>深める 34分</p>	<p>(4)意味段落を要約し、筆者の伝えたいことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>原爆ドームは、それを見る全ての人々が、核兵器は不必要であり平和を守っていこうという気持ちをもつための世界の遺産なのだ。</p> </div>	<p>・「それを見る人」とは誰のことですか。</p> <p>・「心に平和のとりでを築く」とは、どういうことでしょうか。</p> <p>◎「平和のとりでを築く」という言葉を別の言葉に言い換えて、この意味段落を要約しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少女 ・広島市民 ・保存を願う全国の人 ・自分も ・みんな ・世界の人々 <ul style="list-style-type: none"> ・原爆はこわいと思う心をもつこと ・核兵器はいらなと思う心をもつこと ・戦争をしてはいけないと思うこと ・平和を願う気持ちをもつこと 	<p>☆みんなで話し合い、深めたことを板書を見て思い出させる。</p> <p>○筆者の伝えたいことを要約することができたか。 (ノート・発言)</p>
<p>まとめる 5分</p>	<p>6. まとめの音読をする。 ・一斉読</p> <p>7. 学習を振り返る。 ・自己評価</p> <p>8. 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>・今日学習した、筆者の伝えたいことを意識しながら読みましょう。</p> <p>・今日の学習を通して分かったことや感じたことをまとめましょう。</p>		<p>○本時の学習を振り返り、まとめることができたか。 (ノート・発言)</p> <p>☆次時の学習内容の予告をし、学習への意欲をもたせる。</p>

(4) 評価

【読むこと】

○「原爆ドーム」について、筆者が伝えたいことを、重要語句や文末表現などを手がかりにして読み取ることができたか。(ノート・発言)

A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
<p>筆者が伝えたいことを、題名や文末表現などを手がかりにして重要語句や中心文を見つけ、核兵器や戦争・平和などに対する自分の思いも含めてまとめることができる。</p>	<p>筆者が伝えたいことを、題名や文末表現などを手がかりにして重要語句や中心文を見つけ、それをもとにまとめることができる。</p>	<p>重要語句や中心文は題名や文末表現などを手がかりにして見つけられること、要約文は重要語句や中心文をもとにまとめられることに気づかせる。</p>

(5) 板書計画

筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

平和のとりでを築く 大牟田 稔

筆者が伝えたいことは何か、読み取ろう。

痛ましい姿
少女
広島市民

核兵器は不必要
保存を願う人
どんな惨害をもたらすか
自分たちも みんな
無言で告げる 警告
世界中の人々

原爆ドームは、それを見る人の心に

核兵器は不必要という気持ち

戦争はしてはいけない

平和を願う気持ちをもつ

平和を守っていききたいという心

平和のとりでを築くための

世界の遺産なのだ。

原爆ドームは、それを見る全ての人々が、
核兵器は不必要であり、平和を守っていかうと
いう気持ちをもつための世界の遺産なのだ。

「平和のとりでを築く」教材分析表

要 旨	構 成			要 点	キーワード	言語事項 ○：指示語 □：接続語 ◇：文末表現
	意味段落	形式段落	小見出し			
原爆ドームは、後世まで、それを見る世界中の人々の心に、核兵器の使用禁止、さらには戦争を許さず、平和を守っていく強い意志を築くための世界の遺産なのだ。	原爆ドームに対する筆者の思い	①	原爆ドームとは	原爆ドームが世界遺産への仲間入りを果たしたとき、わたしは、この傷だらけの建物がたどってきた年月を思わずにはいられなかった。	原爆ドーム 平和 戦争 世界遺産 時代	○そのまま ○この日 ○その年月
		原爆ドームがたどった歴史	②	原爆ドーム完成	1915年、物産陳列館として完成。多くの市民に親しまれる。	原爆ドーム
	③		平和な時代を見守る原爆ドーム	時代の流れ		○この建物
	④		原爆の威力と被害	1945年、原爆投下により建物は全焼。れんがと鉄骨の一部は残る。	原子爆弾	○それは ○その多く
	⑤		原爆ドーム全焼		後の時代	○この
	⑥		原爆ドーム保存に関する議論	戦後間もないころ、原爆ドームを保存するか取り壊すか議論が続く。	原爆ドーム 保存 原爆	
	⑦		「原爆ドーム永久保存」に立ち上がる	1960年、被爆が原因とみられる病で亡くなった少女の日記に後おしされて、市民も役所も「原爆ドーム永久保存」に立ち上がる。	原爆ドーム 原爆 保存 後世	○その少女 ○この日記
	⑧	全国からの支援	保存		○このこと ○その後	
《文章構成図》 	世界遺産への道のり	⑨	世界遺産登録への動きの高まり	1992年、原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まる。	世界遺産 原爆ドーム	□そして ○この動き
		⑩	世界遺産とは		世界遺産 原爆ドーム	
		⑪	世界遺産登録決定	決定の知らせが届いたとき、わたしは、世界の人々の平和を求める気持ちの強さを改めて感じた。	原爆ドーム 世界遺産 平和	○それは □そして □しかし
	まとめ	⑫	原爆ドームは記念碑	原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。	原爆ドーム 原子爆弾 核兵器 記念碑	◇なのである
		⑬	原爆ドームは世界の遺産		戦争 人の心の中 平和のとりで 原爆ドーム 世界の遺産	○それを ◇なのだ

段落	段落の要約	教材文	指導(能力)事項	言語事項
<p>① 原爆ドームの紹介</p>	<p>① 広島市には、一発の原子爆弾で破壊され、そのままの形で保存されてきた「原爆ドーム」がある。この原爆ドームは、ユネスコの世界遺産に登録されている。</p> <p>〔課題例〕原爆ドームは、どんな建物だろう。</p> <p>〔まとめ例〕原爆ドームは、広島市にあり、一発の原子爆弾で破壊されてしまった建物である。この建物は、戦争をいましめる建造物として、ユネスコの世界遺産への仲間入りを果たした。</p>	<p>① 広島市には、一発の原子爆弾で破かいされ、そのままの形で今日まで保存されてきた「原爆ドーム」とよばれる建物がある。この原爆ドームが、平和を築き、戦争をいましめるための建造物として、ユネスコの世界遺産への仲間入りを果たしたとき、わたしは、建築されてからこの日まで、この傷だらけの建物がたどってきた年月を思わずにはいられなかった。その年月は、わたしたちの父母や祖父母たちが生きてきた時代、そして、社会が激しく変わっていった時代と重なる。</p> <p>② 「原爆ドーム」は、広島市のほぼ中心を流れる川のほとりに建っている。もともとは、物産陳列館として、一九一五年(大正四年)に完成した。ヨーロッパ出身の若い建築家が設計した鉄骨・れんが造りの三階建てで、建物の真ん中には、楕円形の丸屋根(ドーム)が五階の高さにつき出ている。建てられた当時は、小さいながら、ひとときわ目立つ建物だったという。</p> <p>③ この建物は、広島を取り巻く時代の流れをじつと見守ってきた。この建物がかげを落とす川には、荷物を運ぶ小ぶねが行きかっていたし、夏になると、子どもたちが水遊びや水泳を楽しんでいた。また、小学生たちの絵や書の作品展の会場としても、この建物は多くの市民に親しまれていた。</p> <p>④ 一九四五年(昭和二十年)八月六日午前八時十五分、よく晴れた夏空が広がる朝、広島市に原子爆弾が投下された。それは、この建物にほど近い、約六百メートルの上空で爆発した。強烈な熱線と爆風が放射線とともに市街をおそった。市民の多くは一瞬のうちに生命をうばわれ、川は死者でうまるほどだった。ようやく生き残った人々も傷つき、その多くは死んでいった。</p> <p>⑤ 爆心地に近かったこの建物は、たちまち炎上し、中にいた人々は全員なくなつたという。建物は、ほぼ真上からの爆風を受けたため、全焼したもの、れんがと鉄骨の一部は残った。丸屋根の部分は、支柱の鉄骨がドームの形となり、この傷だらけの建物の最大の特徴を、後の時代にとどめることとなつた。</p>	<p>(事) 広島市 (事) 一発の威力の大きさ (事) 破壊されたまま (事) 原爆ドームの役割をとらえる (事) この日世界遺産への仲間入りを果たした日 (想) 何ができるように変わったのか考へる</p> <p>(事) 原爆ドームの建てられた場所、役割、完成年、設計者、つくりの特徴をとらえる</p> <p>(事) 平和な時代の様子 (想) 筆者の思い、考へを読み取る</p> <p>(事) 原子爆弾が投下された日の様子、いつ、どんな日、どこで爆発したかをとらえる</p> <p>(想) 平和な時代十対比によって筆者は何を伝えたいのか考へる</p>	<p>「原子爆弾」 「世界遺産」 「思わずにはいられなかった」</p>
<p>② ③ 原爆ドームの歴史</p>	<p>② ③ 一九一五年完成。川のほとりで市民の平和な暮らしともにあつた。</p> <p>④ ⑤ 一九四五年、原爆が近くに投下され、多くの市民が亡くなつた。建物は、支柱の鉄骨がドームの形で残つた。</p> <p>〔課題例〕原爆ドームは、広島のような時代を見守ってきたのだろう。</p> <p>〔まとめ例〕原爆ドームは広島が平和な時代には作品展などの会場として、多くの市民に親しまれていた。しかし、原子爆弾の投下により、市民の多くは一瞬のうちに生命を奪われ、この建物もれんがと鉄骨を残し炎上した。</p>	<p>② 「原爆ドーム」は、広島市のほぼ中心を流れる川のほとりに建っている。もともとは、物産陳列館として、一九一五年(大正四年)に完成した。ヨーロッパ出身の若い建築家が設計した鉄骨・れんが造りの三階建てで、建物の真ん中には、楕円形の丸屋根(ドーム)が五階の高さにつき出ている。建てられた当時は、小さいながら、ひとときわ目立つ建物だったという。</p> <p>③ この建物は、広島を取り巻く時代の流れをじつと見守ってきた。この建物がかげを落とす川には、荷物を運ぶ小ぶねが行きかっていたし、夏になると、子どもたちが水遊びや水泳を楽しんでいた。また、小学生たちの絵や書の作品展の会場としても、この建物は多くの市民に親しまれていた。</p> <p>④ 一九四五年(昭和二十年)八月六日午前八時十五分、よく晴れた夏空が広がる朝、広島市に原子爆弾が投下された。それは、この建物にほど近い、約六百メートルの上空で爆発した。強烈な熱線と爆風が放射線とともに市街をおそった。市民の多くは一瞬のうちに生命をうばわれ、川は死者でうまるほどだった。ようやく生き残った人々も傷つき、その多くは死んでいった。</p> <p>⑤ 爆心地に近かったこの建物は、たちまち炎上し、中にいた人々は全員なくなつたという。建物は、ほぼ真上からの爆風を受けたため、全焼したもの、れんがと鉄骨の一部は残った。丸屋根の部分は、支柱の鉄骨がドームの形となり、この傷だらけの建物の最大の特徴を、後の時代にとどめることとなつた。</p>	<p>(事) 原爆ドームの建てられた場所、役割、完成年、設計者、つくりの特徴をとらえる</p> <p>(事) 平和な時代の様子 (想) 筆者の思い、考へを読み取る</p> <p>(事) 原子爆弾が投下された日の様子、いつ、どんな日、どこで爆発したかをとらえる</p> <p>(想) 平和な時代十対比によって筆者は何を伝えたいのか考へる</p>	<p>「原子爆弾」 「世界遺産」 「思わずにはいられなかった」</p>
<p>② ③ 原爆ドームの歴史</p>	<p>② ③ 一九一五年完成。川のほとりで市民の平和な暮らしともにあつた。</p> <p>④ ⑤ 一九四五年、原爆が近くに投下され、多くの市民が亡くなつた。建物は、支柱の鉄骨がドームの形で残つた。</p> <p>〔課題例〕原爆ドームは、広島のような時代を見守ってきたのだろう。</p> <p>〔まとめ例〕原爆ドームは広島が平和な時代には作品展などの会場として、多くの市民に親しまれていた。しかし、原子爆弾の投下により、市民の多くは一瞬のうちに生命を奪われ、この建物もれんがと鉄骨を残し炎上した。</p>	<p>② 「原爆ドーム」は、広島市のほぼ中心を流れる川のほとりに建っている。もともとは、物産陳列館として、一九一五年(大正四年)に完成した。ヨーロッパ出身の若い建築家が設計した鉄骨・れんが造りの三階建てで、建物の真ん中には、楕円形の丸屋根(ドーム)が五階の高さにつき出ている。建てられた当時は、小さいながら、ひとときわ目立つ建物だったという。</p> <p>③ この建物は、広島を取り巻く時代の流れをじつと見守ってきた。この建物がかげを落とす川には、荷物を運ぶ小ぶねが行きかっていたし、夏になると、子どもたちが水遊びや水泳を楽しんでいた。また、小学生たちの絵や書の作品展の会場としても、この建物は多くの市民に親しまれていた。</p> <p>④ 一九四五年(昭和二十年)八月六日午前八時十五分、よく晴れた夏空が広がる朝、広島市に原子爆弾が投下された。それは、この建物にほど近い、約六百メートルの上空で爆発した。強烈な熱線と爆風が放射線とともに市街をおそった。市民の多くは一瞬のうちに生命をうばわれ、川は死者でうまるほどだった。ようやく生き残った人々も傷つき、その多くは死んでいった。</p> <p>⑤ 爆心地に近かったこの建物は、たちまち炎上し、中にいた人々は全員なくなつたという。建物は、ほぼ真上からの爆風を受けたため、全焼したもの、れんがと鉄骨の一部は残った。丸屋根の部分は、支柱の鉄骨がドームの形となり、この傷だらけの建物の最大の特徴を、後の時代にとどめることとなつた。</p>	<p>(事) 原爆ドームの建てられた場所、役割、完成年、設計者、つくりの特徴をとらえる</p> <p>(事) 平和な時代の様子 (想) 筆者の思い、考へを読み取る</p> <p>(事) 原子爆弾が投下された日の様子、いつ、どんな日、どこで爆発したかをとらえる</p> <p>(想) 平和な時代十対比によって筆者は何を伝えたいのか考へる</p>	<p>「原子爆弾」 「世界遺産」 「思わずにはいられなかった」</p>

段落	段落の要約	教材文	指導(能力)事項	言語事項
<p>③ ⑨ ⑩ 原爆ドームが世界遺産に登録されるまで</p>	<p>⑥・⑦・⑧ 保存か取り壊しかの議論があったが、一少女の日記がきっかけで保存が決まった。全国からの支持もあった。 〔課題例〕どのようにして原爆ドームが保存されることになったのだろうか。 〔まどめ例〕初めは思い出したくないという理由から保存に反対する人たちもいた。しかし、一少女の日記をきっかけに原爆の被害を後世に伝えていくために保存することに決まった。その後、全国にその思いは広がり保存されることとなった。</p>	<p>⑥ 原爆ドームを保存するか、それとも取りこわしてしまうか、戦後間もないころの広島では議論が続いた。保存反対論の中には、「原爆ドームを見ていると、原爆がもたらしたむごたらしいありさまを思い出すので、一刻も早く取りこわしてほしい。」という意見もあった。 ⑦ 市民の意見が原爆ドーム保存へと固まったのは、一九六〇年(昭和三十五年)の春、急性白血病でなくなった一少女の日記がきっかけであった。赤ちゃんだったころに原爆の放射線を浴びたその少女は、十数年たって、突然、被爆が原因とみられる病にたおれたのだった。残された日記には、あの痛々しい産業奨励館だけが、いつまでも、おそるべき原爆のことを後世にうつつたえかけてくれるだろう、と書かれていた。この日記に後おしされて、市民も役所も「原爆ドーム永久保存」に立ち上がったのである。 ⑧ 保存といっても、傷ついた建物だけに簡単ではない。風や雨、雪に打たれ、震動にさらされる原爆ドームには、何よりも補強工事が急がれた。このことが新聞やテレビで伝えられると、全国から保存を願う手紙や寄付が次々と広島市に届けられるようになった。その後、補強工事は何度かくり返され、今の形を保っている。 ⑨ 日本が一九九二年(平成四年)にユネスコの世界遺産条約に加盟した直後から、広島では、原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まった。そして、この動きは、たちまち全国へと広がっていった。この市民中心の活動は、原爆ドームが世界遺産に指定される一九九六年(平成八年)まで続いたのである。 ⑩ 世界遺産は、人間の歴史に大きな役割を果たした文化遺産と、地球上にある貴重な自然遺産を、未来へ向けて大切に守っていくために、ユネスコと世界の国々が調査し、指定していく制度である。エジプトのピラミッドや、ギリシャのオリンピア遺跡など、すでに七百か所以上が、世界遺産として手厚く保護されている。日本では原爆ドームより前に、姫路城や屋久島などが選ばれている。 ⑪ 原爆ドームが世界遺産の候補として、世界の国々の審査を受けることになったとき、わたしは、ちよつぱり不安を覚えた。それは、原爆</p>	<p>(事) 議論の内容 (想) 「取りこわす」という考えの理由 …心の傷が深い 「一刻」 (事) 保存へのきっかけとなった日記 「急性白血病」 (事) どんな少女が書いたものか 「放射能」 「被爆」 (想) 日記を読んで人々はどんなことを感じたのか (事) 「突然」であることをおさえる 「後おし」 (想) なぜ全国から手紙や寄付が届いたのか ↓ 全国の人々の思い (想) 人々の思いを読み取る ・なぜ動きが高まったのか ・なぜ全国に広がったのか ・なぜ市民中心なのか (事) 四年間続いた(事) 世界遺産について 「文化遺産」 「自然遺産」 (事) 不安の理由</p>	<p>「むごたらしい」 「一刻」 「急性白血病」 「放射能」 「被爆」 「後世」 「後おし」 「補強」</p>

段落	段落の要約	教材文	指導（能力）事項	言語事項
<p>四 ⑫ ⑬</p> <p>原爆ドームについて の筆者 の考え</p>	<p>小さく歴史も浅かったが、世界の人々にも支持され登録されることになった。</p> <p>⑫・⑬ 原爆ドームは、心に平和のとりでを築くための世界遺産である。 〔課題例〕筆者の訴えたいことは何だろう。 〔まとも例〕筆者は、核兵器を二度と使ってはいけないことを忘れて、心の中に平和のとりでを築くべきだと強く訴えている。</p>	<p>ドームが、戦争の被害を強調する遺跡であること、そして、規模が小さいうえ、歴史も浅い遺跡であることから、果たして世界の国々によって認められるだろうかと思っただからであった。しかし、心配は無用だった。決定の知らせが届いたとき、わたしは、世界の人々の、平和を求める気持ちの強さを改めて感じたのだった。</p> <p>⑫ 痛ましい姿の原爆ドームは、原子爆弾が人間や都市にどんな惨害をもたらすかをわたしたちに無言で告げている。未来の世界で核兵器を二度と使ってはいけない、いや、核兵器はむしろ必要だと、世界の人々に警告する記念碑なのである。</p> <p>⑬ 国連のユネスコ憲章には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」と記されている。原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。</p>	<p>（事）世界の人々の思い</p> <p>（事）原爆ドームの役割 （想）そこに含まれる筆者の思い、考え</p> <p>（事）筆者の強いメッセージを支える事例を振り返る</p>	<p>「無用」</p> <p>「惨害」 「もたらす」</p> <p>「ユネスコ憲章」 「とりで」</p>